

営農部営農支援課 南部エリア岩槻地区担当TACの渡邊です。

今回は土づくり肥料「アヅミン」のご紹介と、昨年度のアヅミン施用試験結果についてご報告いたします。

アヅミンは、主成分である腐植酸を約50%含んでいる土づくり肥料です。腐植酸とは土壤の緩衝能、保肥力、保水性、通気性の向上が期待できる有機物の中の物質です。

アヅミンの主な効果としては、①地力を高める……堆肥と併用することによって土を柔らかくし、肥え持ちが良くなるほか、土壤中の微生物(バクテリア等)がバランスよく育ちます。②肥料の効果を高める…石灰、苦土を土壤に浸透・分散させ、肥料成分の流亡を抑え、効率よく作物に吸収させます。また施設栽培で問題となるリン酸の固定を抑制し、作物への吸収を促進する働きがあります。③作物の根の活性を高める発根を促し、根張りが良くなるほか、露地野菜においての塩類集積による濃度障害の軽減にも期待できます。

①～③のポイントをまとめますと、土壤のバランスを整え、作物の根張りを良くし、肥料成分を無駄なく吸収させる資材となります。施肥量としましては、水稻10アールあたり30～40kg、野菜・果樹等10アールあたり40～80kgとなり、年2回(例：春肥、秋肥各1回)を連年施用することで、さらに効果が望めます。また果樹園など耕起しにくい圃場でも、表層施肥で効果が発揮されます。注意点としまして、アヅミンは堆肥そのものではないので、圃場にはしっかりと堆肥を施用し、それに加えてアヅミンを施用することをお勧めします。

続きまして昨年度のアヅミン施用試験の結果ですが、昨年度は岩槻地区の山東な・小松菜生産者4名(山東な1名・小松菜3名)のハウス圃場での試験を行いました。生育期間の短い葉物野菜の根張りを良くし、養分を効率よく吸収させ、1株当たりの重量を増やすことが主な目的です。試験はハウス内に慣行区・試験区を設置し、試験区にはアヅミンを40kg/200坪施用しました。収穫時にそれぞれの区から5株ランダムに採取し、重量・草丈・根長・根の太さの4項目を測定しました。

採取した作物を並べて比較しますと、みかけの違いは特にありませんでしたが、4項目の測定値については、慣行区に比べ試験区の平均比率が、重量125.8%、草丈105.0%、根長104.8%、根の太さ120.5%と4項目すべてにおいて試験区が上まわりました。この結果から葉物については、草丈はほとんど変わらず、重量の乗った株を収穫できることがわかりました。今後につきましては、引き続きアヅミンの連年施用、土壤診断を行い、同時期の石灰・苦土・リン酸値を測定していきたいと考えております。

圃場が固いと感じる方や土壤のバランスが気になる方は、ぜひアヅミンをお試ください。アヅミンは各地区営農経済センターまでお問い合わせください。

